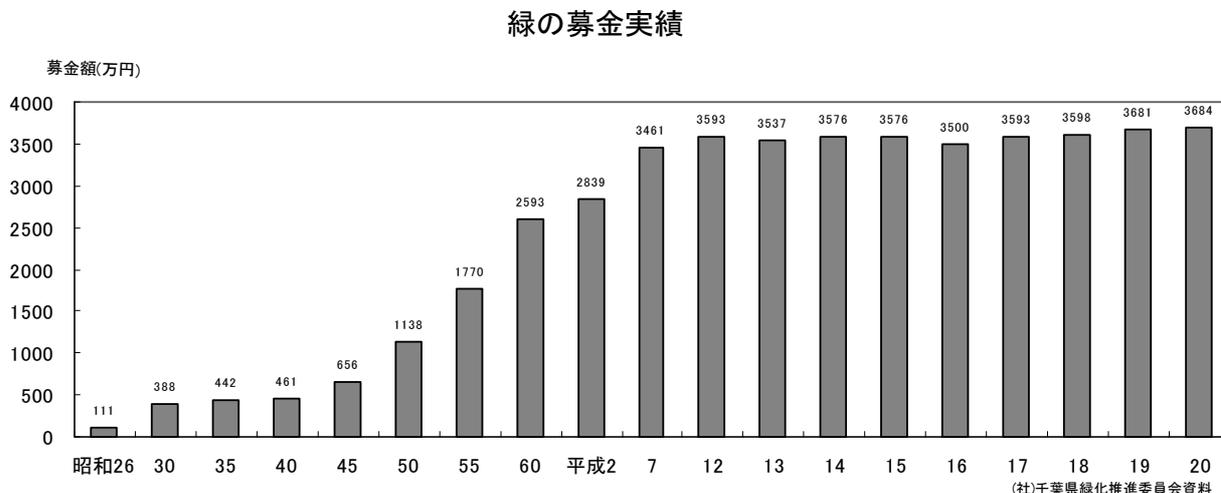


8. みどりづくり

緑の募金実績



—県民参加のみどりづくりを進める—

森林に代表されるみどりは、その恵みを通じて私たちの暮らしをさまざまな面から支えており、県民のみどりに対する関心やニーズは大きな高まりを見せている。

このようななか、みどりづくりへの県民参加の重要性について普及・啓発を図るため、県と社団法人千葉県緑化推進委員会は、春季の緑の募金期間中（3／1～5／31）に多彩な行事を展開している。

また、戦後の山林の復興を目標に昭和26年から始まった緑の羽根募金は、平成7年度制定された緑の募金法により「緑の募金」に引き継がれ、平成20年度の募金実績は36,839千円で、寄せられた募金は、各種の普及啓発やみどりづくりに役立てられている。

9. 里山活動

「千葉県里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例（千葉県里山条例）」に基づく里山活動を促進するための多様な取組みを展開した結果、里山活動協定の認定件数は、平成20年度末現在で102件、対象となる里山の面積は約150ヘクタールとなった。

また、県では5月18日を「里山の日」、5月を「里山月間」としており、記念行事として第5回里山フェスティバルを実施し、県民の間に広く里山活動への関心及び理解を深めるとともに、積極的に里山活動に参加する意識の高揚に努めた。

この期間中、「里山と生命（いのち）のにぎわい」をテーマに千葉市で開催された市民団体による里山シンポジウムや県内6地域で実施した里山体験には多くの県民が参加し、県民の里山活動についての理解を深めることができた。

里山活動の推進母体である「ちば里山センター」では、里山活動団体のネットワークを構築するとともに技術講習会や里山活動体験講座などのイベントの開催、里山活動相談や「ちば里山新聞」の発行などの普及啓発事業を実施し、里山活動団体への支援と県民や企業等の里山活動への参加を促進した。

また、土地所有者による管理が難しく森林整備が希望される里山の情報を収集し、「里山情報バンク」を通して里山活動団体などに提供している。